『六度集経』第81話「常悲菩薩本生」と『般若経』の異相

――三十二相八十種好を手がかりとして――

伊　藤　千　賀　子

I　はじめに

本論文は『六度集経』の「常悲菩薩品」と『般若経』の「常啼菩薩品」の新旧を仏陀の身体的特徴をあらわす言葉を手がかりにして考察していくものである.

大乗仏教の発展の過程は必ずしもあきらかというわけではないが，仏伝を中心とする文学活動が大乗仏教の展開や発展に大きく寄与したことは疑いない．それは大乗仏教の六波羅蜜の内容が仏伝文学と一致することからも知ることができる[1].

仏伝文学の一つである『六度集経』は91話の本生譚を六波羅蜜に配分して説いたものである．そのなかの禅定の章に，『般若経』の「常啼菩薩品」と対応する「常悲菩薩本生」が組み込まれており，『般若経』とのつながりを示している.

『六度集経』の「常悲菩薩本生」(以下『六度』) と『般若経』をとりあげた論文は，最も古い漢訳である『道行般若経』の「薩陀波倫菩薩品」(以下『道行』) との新旧を問題にしているものが多い．それには3種類の論考がある．(1)『道行』を古いとするもの，(2)『六度』を古いとするもの，(3) どちらともいえないとするもの，の3である．それぞれの概要を以下にまとめる．(1)『六度集経』の第65話や第66話に『般若経』や空思想が見受けられることから，『六度集経』は般若経を充分に知っていて，『六度』は「常啼菩薩品」を本生譚としたものである[3]．(2)『六度』が先行し，『道行』，『大明度経』のように変化した[4]．「常啼菩薩品」の方が詳しく整っており，明らかに後の成立[5]．『六度』が古形を示し，『道行』のものははるかに増広されている[6]．(3)『道行』と『大明度』にのみ見られる般若波羅蜜の宣揚をふくむモチーフが他の『般若経』に存在しないことから，『道行』が『六度』をもとにしたのではなく，『六度』と『八千頌』に共通の原形となる物語があり，それぞれ別に発展していった[7].

まず (1) であるが，経典の成立年代やその新旧と，そのなかに収められている所伝の新旧とはかならずしも対応するわけではない．新しい経典が古い所伝を

収めているということはしばしば見受けられることである．とりわけ『六度集経』は，一話一話の構成に統一がなく，収集した所伝に大乗を宣揚する文章を付け加えて作られたものと考えられる．したがって，『六度集経』全体ををまとめて論ずることには無理がある．つぎに（2）であるが，具体的で確実な根拠は示されていない．物語というものは増広されることはあっても削除はないという前提にたたねば，これらの論は成立しない．抄訳ということも十分ありうることである．(3) については，文章を比較してみる限り，『六度』と『般若経』の所伝には同文性がまったくみられず，どちらか一方から他方へ発展していったとは考えにくい．この点からも，この2所伝に直接の関係がないことは明らかであろう．

II　経典とストーリー

『般若経』の「常啼菩薩品」は，大品系にも小品系にもふくまれているが，今回は以下の通り，成立の古いとされる小品系統の5所伝をとりあげる．

『六度集経』巻7-81「常悲菩薩本生」[8] A.D. 251-280[9]
『道行般若経』巻10-29「薩陀波倫菩薩品」[10] A.D.179[11) 12)]
『大明度経』巻6-28「普慈闍士品」[13] A.D.223-253[14]
『小品般若経』巻10-27「薩陀波倫品」[15] A.D.344-413[16]
『仏母出生三法蔵般若波羅蜜多経』巻23-30「常啼菩薩品」[17] A.D.980[18) 19)]
『八千頌般若経』第30章「サダープラルディタ品」[20) 21)]

（以下，[『六度』『道行』]『大明度』『小品』『仏母』『八千頌』とする）

上記の般若経はすべて『八千頌般若経』の同本異訳である[22]．特に『仏母』は現存梵本八千頌般若と最も一致する．しかし全く同一というわけではない[23]．

『六度』の基本的なストーリーを10にわけて述べる[24]．

①衆祐が説かれた．②仏が常悲という名の菩薩であった時，仏も経典も沙門もなく，世の中が破滅に向かっていることを嘆き悲しんで常に涙を流していた．③常悲は夢で，影法無穢如来王仏に会い「無為とは諸念を寂滅することである」という法を聞いて喜び，心垢が除かれ定に入る．④そこで妻子と家を捨て深山に入るが，やはり仏に会えず，経を聞けないことを嘆き悲しみ泣いていた．⑤天神が下りてきて「明法をもとめ，誦習し，行ぜよ．汝はかならず仏となるであろう．明法を得るため，何事にもとらわれず，ただ一心に東行せよ」と告げる．⑥常悲はひたすら東行するも「どのくらい行ったらよいのかを聞かなかった」と数日で中

止し，仏に会えないのを悲しみ泣く．⑦上方より仏が飛んで来られた．菩薩が説法を望んだ．仏は「三界は空であり，無常である」と説き，さらに「東へ2万里行った所に菩薩だけが住む揵陀越という国がある．その最尊の法来菩薩を師とせよ」と云う．⑧常悲は仏が法来の名徳を讃歎するのを聞いて法喜を感じ現在定を得た．諸仏が明法を説くのを見，さらに「過去現在未来の諸仏もみな汝と同じである．汝は必ず仏となり，一切の生を済はん」[25]という記別を受く．⑨定より覚めて，諸仏がおられないのを知り，「仏はどこから来て，どこへ行ってしまったのか」と嘆いた[26]．⑩禅定も極めれば，仏の説法をも聞くことができる．

III　仏の身体的特徴の比較

今回はIIで述べたストーリーのうち⑤⑦⑧のみを対象とし，そこに描かれる仏陀の身体の形容について着目したい．

⑤において『六度』には，天神が常悲に向かって「爾は必ず四無所畏・十種力・十八不共を得ん．身色紫金にして，項光際なし．十方に経道あり．爾は明主・衆聖之尊・天人之師と為らん．」（大III 43b5-7）と予言をするモチーフがある．この部分，『道行』では空中からの声が「汝，当さに是の大法を求索むべし．汝，是の法を聞き，若しくは行じ，若しくは守らば，仏所有の功徳，汝は悉く当さに之を得べし．仏の三十二相八十種好，汝は悉く当さに之を得べし[27]．汝は悉く当に経法を持し，十方の天下人に教ふべし．」（大VIII 471a18-21）と言う．『大明度』でも，空中からの声が「若じ当さに是の法をもとめ，聞き守り行ずることを得れば，仏の功徳身三十二相八十種好を若じは当さに之れを得べし．亦た当さに經法を以て十方人に教ふべし．」（大VIII 504a12-14）とある．他の3所伝には⑤にこのモチーフは存在しない．

また⑦の『六度』で，上方から飛んで来た仏を「身色は紫金なり．相好は絶聖なり．面は満月の若し．項に日光あり」[28]（大III 43b24-25）と形容する．『道行』では虚空中に立つ化作仏を「身に金色あり．身は十億の光炎を放ち，身に三十二相あり」（大VIII 471b19-20）とする．『大明度』では空中の化仏を「身は金色にして十億光焔を放ち，三十二相なり」（大VIII 504a29-b1）という．『小品』に現れるのは仏像，『仏母』では如来形像，『八千頌』では如来の姿である．この3所伝には身体をあらわす言葉は述べられていない．

さらに，⑧で『六度』には仏が常悲に記別を授けるモチーフがある[29]．『六度』

は仏の外見に触れることはない．しかし『道行』では，薩陀波崙が見十方諸仏三昧のなかで，諸仏からかつて自分たちが菩薩であった時，般若波羅蜜を聞いて薩芸若を得，さらに「三十二相・八十種好・十種力・四無所畏・四事不護・十八事不共を得」（大Ⅷ472a22-24）たとある．『大明度』にも同じモチーフがあり，見十方仏定に入った普慈が，諸仏が菩薩であった時，精進を重ねて明度を獲得し，「成じて一切智・三十二相・八十好・十種力・四無所畏・四事不護・十八不共と為らん」（大Ⅷ504c7-8）とある．『小品』にも同様のモチーフがあり，諸仏が「是の如き金色之身・三十二相・大光明・不可思議なる智慧・諸仏の無上の三昧・無上の智慧を得」（大Ⅷ581c21-23）たと言う．『仏母』は『小品』とまったく対応する文章の後，「金色の身・種種の光明・三十二大人相・八十種隨形好を得，皆悉く具足す」（大Ⅷ670a17-18）とある．『八千頌』でも，三昧に入って，十方の諸仏から「われわれはこのような金色の身体を獲得し，大人をあらわす三十二相，八十種好，一尋の円光，無上にして不思議な仏陀の知，仏陀の知恵，仏陀の無上の精神集中，すべての仏の特性という功徳を獲得したのである．」[30] と語りかけられる．

すなわち，仏の姿をあらわすに，『六度』は「身色紫金にして，項光際なし．」，あるいは「身色は紫金なり．相好は絶聖なり．面は満月の若し．項に日光あり」と形容している．しかし『般若経』においては，『小品』のみ三十二相だけで八十種好はみられないが，他の4所伝は三十二相八十種好という語で仏陀の姿をあらわしている．すでに三十二相八十種好はみなが了解している語となっていて，その説明はない[31]．

仏像の出現は紀元1世紀の末葉からであったと推定される[32]．しかし仏教との仏陀の身体に対する関心は強く，アショカ王（紀元前3世紀）以前の成立と考えられている *Suttanipāta* の第548偈や第549偈，および *Theragāthā*（紀元前6-3世紀ごろの成立）[33] の第818偈や第819偈には，後世の三十二相と共通する内容のものがすでに述べられている．身体が金色に輝くとか，歯が白いというのは明らかに後世の相好に示される内容であり，*Suttanipāta* の第1000偈には，32の特別な相が意識されている．確かに可視的に表現されることはなく，具体的には仏像出現を待って表されるのではあるが，三十二相八十種好という整備されたものではないにしても，仏像出現以前から仏陀の身体を可視的にとらえようとする強い意識があった[34]．しかし三十二相という数は経典によっては，三十二相に満たないものやそれ以上のものもあり，また八十種好との関連もあって複雑である．すなわ

ち，何をもって三十二相八十種好とするかは経典によって著しく相違している．たとえば「満月のような顔面」（面輪其猶満月，pūrṇacandranibhānana）は『大般若』の系統にいたって三十二相のひとつに数えられている[35]．

結論

以上から分かることは，『六度』は「満月の如き面」が三十二相に数えられる以前に書かれたものであり，さらに三十二相や八十種好という語彙が定まる以前につくられた所伝である．したがって，『六度集経』第81話「常悲菩薩本生」は小品系『般若経』のいづれの経典よりも早く成立した所伝である．

1）平川彰「大乗仏教の特質」（p.18　平川彰・梶山雄一・高崎直道編集『講座・大乗仏教』1「大乗仏教とは何か」春秋社　1981），三枝充悳「般若経の成立」（p.98『講座・大乗仏教　2　般若思想』春秋社　1983）

3）干潟龍祥『本生経類の思想史的研究』（pp.94-95 改訂増補版　山喜房仏書林　1978.6）

4）赤沼智善『仏教経典史論』（p.385　法蔵館　1981）

5）平川彰「初期大乗仏教の研究Ⅰ」（p.202『平川彰著作集』第3巻　春秋社　1989）

6）梶山雄一「般若経――空の世界」（p.30-31 中公文庫　中央公論新社　2002　：『般若経』中公新書　1976）

7）藤田正浩「仏伝文学と大乗経典――『六度集経』の「常悲菩薩本生」と『般若経』の「常啼菩薩品」――」（pp.27-30『印度学仏教学研究』第39巻第1号　1992.12）

8）呉　康僧会訳

9）大Ⅲ 43a13 ～ c20

10）後漢　支婁迦讖訳

11）大Ⅷ 470c18-474a23

12）般若経の「常啼菩薩品」等は，『道行』が「累教品大二五」までで一応完成した後に，付加されたものと一般に承認されている．（平川彰「初期大乗仏教の研究Ⅰ」p.201『平川彰著作集』第3巻　春秋社　1989）．最古の『道行』においても，すでに「薩陀波倫菩薩品第二十八と曇無竭菩薩品第二十九などは収録されて，決して等閑視できない内容である．（勝崎裕彦「小品系般若経〈常啼菩薩品〉の教説構造」p.30『印度学仏教学研究』第44巻1号 1991.12）

13）呉　支謙訳

14）大Ⅷ 503c19-505c12

15）後秦　鳩摩羅什訳

16）大Ⅷ 580a22-582a12

17）宋　施護訳

18) 大Ⅷ 668a20-670c13
19) 以上はすべて小野玄妙編纂『仏書解説大辞典』(p.327b　縮刷版　1999　大東出版社) より引用.
20) 日本語訳はすべて,『大乗仏典３　八千頌般若経Ⅱ』(梶山雄一訳, 丹治昭義訳, 中公文庫 1667　中央公論新社　2001) によった. ただし文中の「知恵の完成」は般若波羅蜜多とした. 梵本は *Aṣṭasāhasrika-Prajnāpāramitā* で, Haribhadra の注釈書 *Abhisamayālaṃkārālokā Prajnāpāramitāvyākhyā* がある.
21) それぞれの系統には, 7,800 年にまたがる各異本, 漢訳, 蔵本, 梵本等があるから, 各異本が, その時代時代に於いて, 別系統の『般若経』の影響を受けていることも考えられる. (真野龍海『般若波羅蜜多の研究』p.3　山喜房仏書林　1992.3)
22) 同本異訳はこれら以外にも存在するが,「常悲菩薩本生」が掲載されていないため, あるいは内容が異なるため, 本稿の対象とはしない.
23) 小野玄妙編纂『仏書解説大辞典』(第 9 巻 p.341　縮刷版　大東出版社)
24) 他の拙論との兼ね合いもあって, 10 種のストーリーにわけた.
25) この利他思想は『六度』にしかみられず,『道行』から『八千頌』までのすべてに欠けている. (藤田正浩「仏伝文学と大乗経典――『六度集経』の「常悲菩薩本生」と『般若経』の「常啼菩薩品」――」p.30『印度学仏教学研究』第 39 巻第 1 号　1992.12)
26) これに対する回答は,『般若経』の「法上菩薩品」で不来不去として明かされる.
27) 得仏三十二相八十種好の「得」を明本にしたがい, 省略した.
28) 「項有日光」を三十二相のひとつに数えるものに『太子瑞応本起経』『無量義経』がある. (高原信一「*Mahāvastu* 所伝「仏の三十二相」について」三十二相対照表『仏教研究』2 号　1972.3)
29) 授記や記別という単語をわたくしは使っているが, 常悲が仏となる時期・国土・仏名・寿命などの予言はしていないので, これらの単語はふさわしくないかもしれない.
30) 『大乗仏典 3　八千頌般若経Ⅱ』(p.329 梶山雄一訳, 丹治昭義訳, 中公文庫 1667　中央公論新社　2001)
31) 嶋善一郎「仏説観無量寿経に於ける白豪相について」(p.61　『龍谷大学論集』361　1959.3)
32) 高田修『仏像の起源』(p.415　岩波書店　1967), 山田明爾「観仏三昧と三十二相」(p.31-32『仏教学研究』24　龍谷大学仏教学会　1967)
33) 水野弘元等責任編集『新・仏典解題事典　第２版』(p.67　春秋社　1977.9)
34) 福原隆善「仏典における白豪相」(p.1『印度学仏教学研究』40-1, 1993.12)
35) 岡田行弘「三十二大人相の系統（Ⅰ)」(p.306　『印度学仏教学研究』38-1, 1990.12)

〈キーワード〉 六度集経, 般若経, 常悲菩薩, 常啼菩薩, 三十二相, 八十種好
(早稲田大学大学院修了)

in the case of (2).

172. The Thirty-two Marks of Physical Excellence of a Buddha in the **Saḍpāramitā-saṃgraha-sūtra* and the *Prajñāpāramitā-sūtras*

Chikako ITO

The **Saḍpāramitā-saṃgraha-sūtra* (*Sp*) which is one of the stories of past lives of the Buddha distributes 91 stories to the Six Pāramitās. *The Sadāprarudita bodhisattva* story (No. 81) in it is placed in the chapter of meditation. The *Prajñāpāramitā-sūtras* (*Pp*) have the same kind of stories. In this paper I concentrate on the *Sp*. I investigate whether *Sp* is older than *Pp* with regard to the bodily features of a buddha.

In *Sp*, buddha was purplish gold, the back of his head emitted rays of light, and his face looked like a full moon.

But in *Pp*, buddha had the 32 physical characteristics and the 80 minor physical marks. They were the vocabulary which everyone had already understood.

The 32 physical characteristics and the 80 minor physical marks are variously listed. For example, 'full moon face' was added to the 32 physical characteristics in a later period.

Therefore, the *Sadāprarudita story* in *Sp* was written earlier than that in the *Prajñāpāramitā-sūtras*.

173. Why do Discriminatory and Exclusive Expressions Appear in the Lotus Sutra?

Tsugunari KUBO

The charm and power of the Lotus Sutra is found in the fact that it entrusts the task of personal and societal benefit to human beings themselves. Yet, why would the Sutra propose to do this if these same human beings are people who are not buddhas, and who are constantly misled by their own intentions and desires?